

きゅうり

使用産地：北海道、群馬県、長野県、宮崎県など全国各地

使用目的：

きゅうりは1年間で抑制、促成栽培の2回栽培を行ったり、トマト栽培後キュウリを栽培するなど土壌を休ませる期間が短かったりと、連作障害の影響で収量が減少することがあります。収量の安定化と土壌病害対策の一環で使用されています。促成栽培時には冬場の地温低下を少しでも抑えるために、微生物の発酵熱（活動熱）を利用し、冬場の収量安定化を目指しています。

使用方法：

- ① コフナ・ソーラー法（太陽熱消毒・土壌還元消毒との併用）
- ② 薬剤等土壌消毒剤後の微生物補給
- ② 抑制栽培終了後、促成栽培の前に肥料と共に投入（元肥施用、有機物は必須）



事例紹介：[群馬県](#)、[長野県](#)、[宮崎県](#)

おまけ：[大どんでん返し併用事例](#)

群馬県

～板倉館林ほか～

＜抑制栽培でのコフナ使用方法＞

使用時期：土壤消毒時期（コフナ・ソーラー法、薬剤消毒）

使用数量：コフナMPSS 15～20袋／10a

使用方法：全層施肥後、土壤混和

使用目的：病害虫抑制と生育促進による収量増

＜促成栽培でのコフナ使用方法＞

使用時期：元肥施用時

使用数量：コフナMPSS 15～20袋／10a

使用方法：元肥や有機物（有機肥料）と土壤混和

使用目的：微生物の発酵熱（活動熱）による地温確保がもたらす活着促進と収量増

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
群馬県:館林市																		
キュウリ(抑制)																		
月	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
群馬県:館林市				▲ →														
キュウリ(抑制)	コフナ・ソーラー法			定種 (大どんでん返し使用・ 発根促進)			収穫(大どんでん返し使用・コフナの活性度維持による 収量確保)											
月	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
群馬県:館林市																		
キュウリ(促成)	収穫(大どんでん返し使用・コフナの活性度維持による収量確保)																	
月	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
群馬県:館林市																▲ →		
キュウリ(促成)													元肥散布(コフナ同時散 布・地温確保活着促進)			定種 (大どんでん返し使用・ 発根促進)		

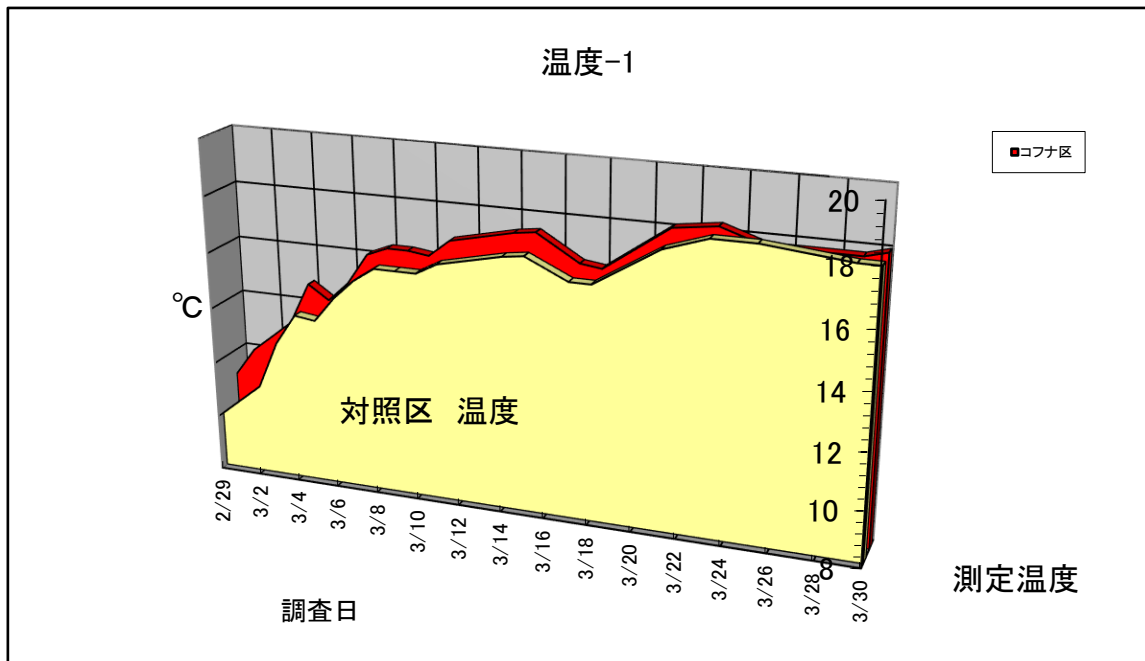
※大どんでん返しの事例は最終ページで紹介

長野県

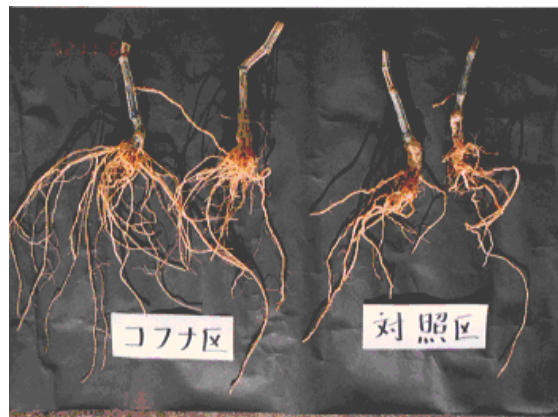
～松本市～

施設にて年2回キュウリの栽培を行なう。

使用資材： 秋 モミガラ 1. 5 t / 10 a
麦ワラ 2. 5 t / 10 a
コフナ1号 15袋 / 10 a
MIC-108 3袋 / 10 a
春 コフナ1号 10袋 / 10 a



冬場の寒さが厳しい時は対照区に比べてコフナ区のほうが地温は高く、
気温・地温が上がってくる3月末についてはゆるやかな地温上昇となっています。
それに応じて、根の広がり、伸びについても差が大きくなっています。



～JAあづみキュウリ部会～

「ここには何十年も変わらないやり方がある。これからも続けていくだけ」

<春のコフナ使用方法>

使用時期：元肥時

使用数量：コフナ1号 10袋／10a

使用方法：有機の肥料とともに全層施肥後、土壌混和

(動植物有機100kg、アミノ酸肥料120kg、苦土重焼燐40kg)

使用目的：根づくり(複合微生物による発根促進)

<秋のコフナ使用方法>

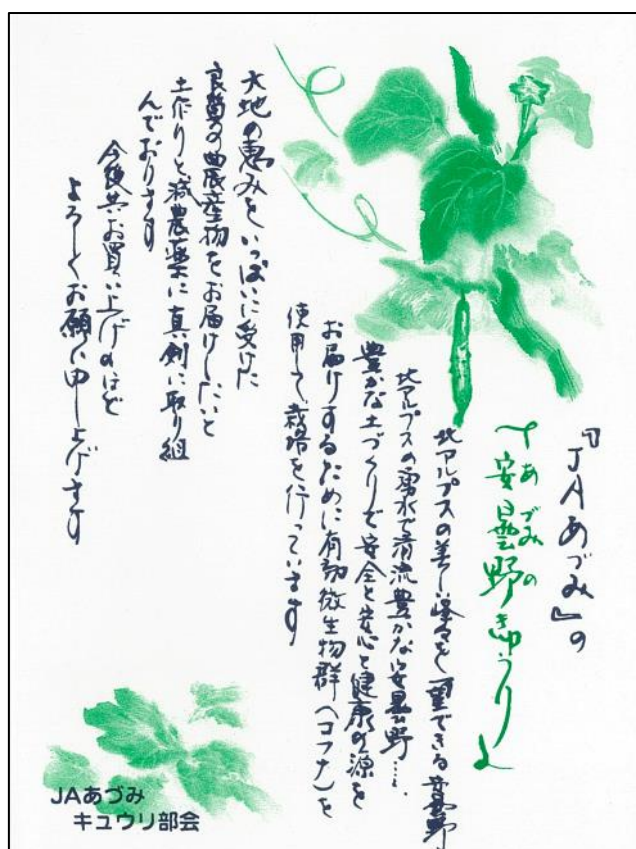
使用時期：収穫後

使用数量：コフナ1号 10袋／10a

使用方法：稲ワラとともに

(稲わら多め、硫安適量)

使用目的：腐植と微生物を畑に補うため



宮崎県

～宮崎県宮崎市佐土原町～

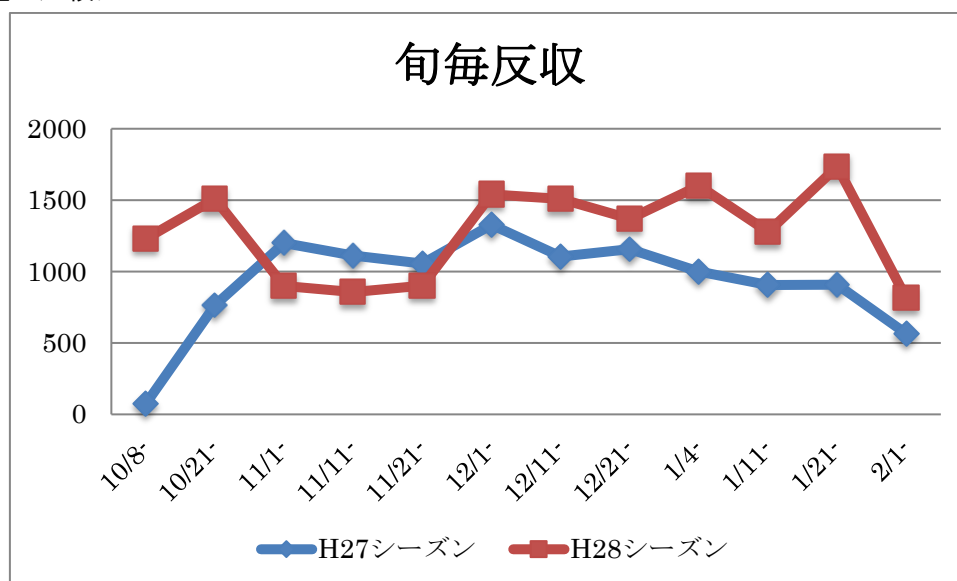
使用時期：土壌消毒時期（コフナ・ソーラー法、）

使用数量：コフナMPSS 15～20袋／10a

使用方法：全層施肥後、土壌混和

使用目的：収量増・安定収穫

<収量の比較>



9月中旬定植～2月上旬まで収穫。収穫終了後、2週間以内に片付け・定植。7月上旬まで収穫実施。その後コフナ・ソーラー法を実施。上記は前半のみのデータ。後半についても前年を上回る収穫となる。

平成27年シーズンの1月より液肥等の使用方法を変化させ、平成28年から本格的にコフナ、大どんでん返し、酸素供給材等を使用して生育改善を図る。

おまけ

<コフナと大どんでん返しの相乗効果>

生り疲れを防止し収量確保を目的に液体微生物資材大どんでん返しを使用



試験圃場にてコフナ投入後、生育期間中に大どんでん返しを使用。定植は12月16日で、収穫期間は1月20日～6月30日まで。大どんでん返しは4月26日から使用を開始。5～6月は月2回使用し計5回使用。同じ施肥で試験を実施。

※混用した液肥は汎用液肥

